



CAGLIERO 11

カリエロ



153 2021年 9月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人、 会員の皆さん、

私にとって、今月のカリエロ11のテーマ「責任 - 環境を守る持続可能な生活」は、ドン・ボスコの「IL GIOVANE PROVVEDUTO」の中の言葉を思い起こさせます。

「子どもたち、目を上げなさい、天とそして地にあるものを見なさい。太陽、月、星々、空気、水、火、それはすべて存在しないものでした。しかし神がおられ、その全能をもってすべてを無から呼びだし、創造されたのです。」

自然のうちに神を観想するようマンマ・マルゲリータに教えられた自らの体験から、ドン・ボスコは、この「単純無垢なまなざし」を持つよう少年たちを育てました。神の愛に目を開くことです。環境問題が、私たちに挑戦を投げかける現実であることは間違いありません。人類にとって非常に大切なこの問題への皆さんの関心を、私も共有したいと思います。これは皆に関わることです。私たち皆が責任を担っています。

■ 地中海地域顧問
ファン＝カルロス・ペレス・
ゴドイ神父, SDB

パキスタン - ムスリムの兄弟姉妹と 共にあるサレジオの存在

1999年に礎が築かれて以来、サレジオ会事業はパキスタンで成長し続けています。私たちは、**最も助けを必要とする若者**に奉仕しています。特にキリスト者共同体の中で働いていますが、ムスリムの若者にも、いつも門戸を開いています。

現在、4名のサレジオ会員が2つの共同体にいます：**ラホール**と**クエッタ**の共同体です。ノブレ・ラル神父とサミュエル・アドナン神父は、パキスタン出身の最初の2人のサレジオ会員で、現在、2つの共同体の院長です。イタリア出身のピエロ・ラメッコ修士もいます。メキシコ出身のガブリエル・クルス神父はこの委任地区の責任者です。「ガボ神父さん」と呼ばれる彼は、2018年以来、パキスタンで働いています。2021年4月から、パキスタンの委任地区と、国外にいる同地区所属会員、皆の世話をしています。

「ドミニコ会、フランシスコ会といった会やその他の修道会は、長年パキスタンにいて、多くの召命があります」とガボ神父は言う。「私たちも召命を頂いています。私たちは、技術訓練教育を提供するパキスタンで唯一の修道会です。私たちの『技術専門学校・ユースセンター』は、パキスタンの技術専門学校の中で最も良い6校のうちに入ります。その中で唯一のカトリック校です。ほかはイスラム教の学校です。」

サレジオ会は、キリスト者(カトリック、プロテスタント)だけでなく、**ムスリムにも**教育を提供します。ムスリムの若者がこの学校に来るのは、私たちが質の高い教育を提供しているからです。私たちは、自分たちの事業が置かれている教区、小教区とよく協力して働いています。また、諸教区合同の神学校で教えています。

ムスリムの人々は、私たちがパキスタンで行っている事業に敬意を払い、喜んでくれています。キリスト教徒は、特に私たちの暮らす地域や小教区周辺では信仰を生きることができます。残念ながら、パキスタンには、キリスト者共同体が**迫害されたり差別されたりする**ところもあります；そのため、信仰をおおやけに表明することは必ずしも容易ではありません。それでもなお、キリスト者は、見事な信心と深さをもって信仰を生きています。

ある問いが浮かぶかもしれません。「それほどイスラム教の強い国で、サレジオ会の存在意義はあるのだろうか？」ガボ神父は答えます：「ドン・ボスコが若者たち皆に願ったのと同じものを、私たちは差し出します：わが家、パン、全人的な養成、教育、そして何よりも、信仰(宗教) - ひと言で言えば、尊厳です。教育を通して、一定の生活水準、良い仕事に就くより幅広い可能性、自分たちと家族が尊厳をもって生きるため力を身につける機会を、私たちは提供します。それは決して小さなことではないのです。」

振り返りと 分かち合いのために

■ 私は、ほかの宗教の人々の
中にキリストを見ようとして
いるだろうか？

ガボ神父(赤いトレーナー)と
サレジオ会の志願生



皆を豊かにする 多様性



ローレン、あなたは長年にわたってサレジオ宣教ボランティア活動のために働いてこられましたね。オーストラリア-太平洋管区の「カリエロ・プロジェクト」のほかにはないユニークな点や特徴は何ですか？

2007年にカリエロ・プロジェクトを立ち上げて以来、私たちは多くの本当に素晴らしいボランティアに恵まれてきました。ボランティアたちは、時間、エネルギー、賜物、才能をささげてくれました。サレジオのカリスマが私たちのプログラムの土台であり、力です。オーストラリアでは、このことは大きな功績なのです。私たちの暮らす社会は非常に世俗化しているからです。若者と共に活動し、歩みたいと願うすべてのボランティアを受け入れています。感動的なのは、カトリックの既存の側面にもほかの宗教にも関心のなかった多くのボランティアが、帰ってくると、自分は“サレジアン”だと言い、ドン・ボスコの足跡をたどる道に献身するようになることです。

オーストラリア-太平洋管区(オーストラリア、ニュージーランド、西サモア、フィジー)のサレジオ・ミッションは、全サレジオ世界を豊かにするために何を差し出せるでしょうか？

私たちの管区は本当に多様で豊かです。大変異なる4つの国、たくさんの異なる文化や世界観から成っています。管区の一方向の端からもう一方の端まで行くのに少なくとも12時間かかり、いくつものフライトを乗り換えなければなりません！ もちろんこの多様性は挑戦を投げかけますが、とても重要なのは、異なるものの考え方にいつも心を開くよう、私たちを促してくれることです。私たちの多様性は、究極的に幅広い人間理解へと導いてくれます — これは素晴らしい贈り物です。

あなたは最近まで、サレジオ会で唯一の女性信徒の管区宣教促進担当者(PDMA)でした。その役割をどうとらえていますか？

2016年にPDMA地域会議に初めて参加したときは緊張しました！ 信徒として、女性として、どのように受けとめられるだろうかと。そのことをギジェルモ・バサニェス神父様に話しました。会議の後で神父様は言いました。「私たちが緊張していたんだよ！」私が緊張する理由などありませんでした：この5年間、共に働いた素晴らしいサレジオ会司祭と修道士の皆さんは、この務めを果たす私をととても温かく迎え入れてくれました。心から感謝しています。私たちは対等な立場で対話します。このことは、ドン・ボスコのサレジオ会の開かれた精神をまことにあかしするものだと思えます。PDMAとして、違う声、違うものの見方をもたらせるのがとても嬉しいです。このユニークな形でサレジオ会に関わる機会をいただいていることは、私にとって本当に誇りです。



ローレン・ヒチャーバ

ローレンはオーストラリアのメルボルンで育った。米国の高校と大学で学び、宗教、演劇の学位を取得。ザンビアで2年間、教師として働く。

その経験に触発され、メルボルンで教育の学士号、その後、開発学の修士号を取得。15年にわたりドン・ボスコのサレジオ会で働き、管区宣教促進担当者を務めるローレンは、オーストラリア-太平洋管区(AUL)のサレジオ宣教ボランティア・プログラム、プロジェクト・カリエロの責任者、共同創立者である。

素晴らしい、元気な4人の子どもの母(写真は息子のザビエルと)。

ボランティア「諮問委員会」の創設

フ
ォ
ー
ラ
ム

- 「諮問委員会」が新たに創設されました。サレジオの宣教ボランティア活動(SMVS)に参加する人々への支援と互いに連携する機会を提供するため。
- サレジオ会員と、サレジオのボランティア・プログラムで長く働いた経験のある信徒サレジアンから成る(ラファエル・ベハラ人、マルコ・フルガロ、ローレン・ヒチャーバ、JCモンテネグロ、アダム・ルティン、パヴェウ・ゼニセク)。
- ボランティア・プログラムを立ち上げるために導きやサポートを必要とする人を支援します。連絡先Eメール：
salesianvol@sdb.org



9月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

環境のために持続可能な生活様式

オセアニアの
ために



オーストラリアのサレジオ会員と若者が、
環境に対し責任ある生き方をしますように。

皆が、簡素な、環境のために持続可能な生活様式を目指し、勇気ある選択をしますように、祈りましょう。
ゆるぎなくその道を歩もうとする若者たちがいることを、喜びながら。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |